

2022年3月期 決算の概要

2022年5月13日



DAISHI HOKUETSU
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

※ 第四北越フィナンシャルグループを「第四北越FG」または「FG」と記載しております



銀行合併・新銀行誕生後

合併の成果をあげる新たなステージへ

2021年
4月

2024年
3月

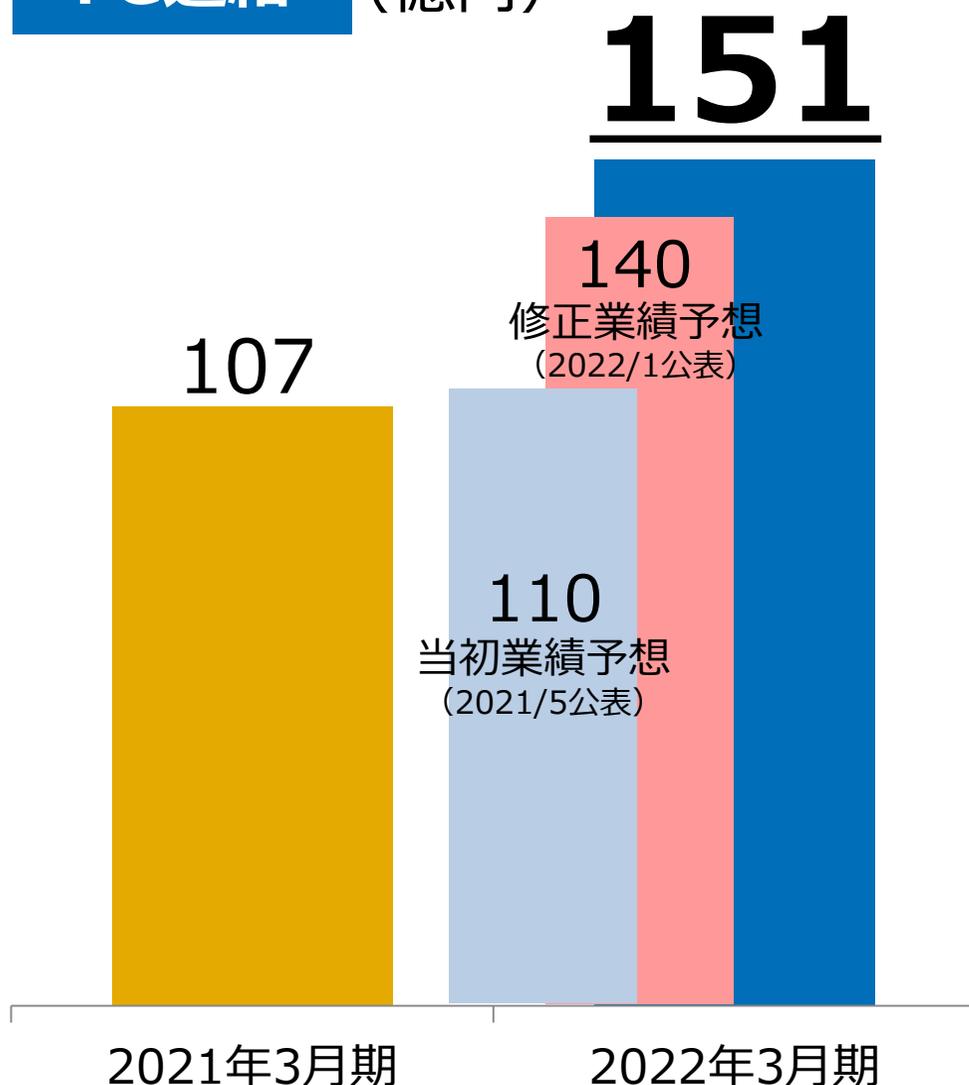
2022年3月期

FG連結当期純利益は、当初業績予想、上方修正した業績予想のいずれも大きく上回り、かつ、前年比でも増益を確保

期初からの4ヶ月間を最重要活動期間と位置付け取り組んだ「DasH!!120」や本部スリム化・店舗統合・営業店業務改革などの「構造改革」の取り組みを通じて、ダイナミックに経営資源の再配分を実行（営業部門やグループ会社部門などへ約280名を再配置）

活動量を増強させ、グループ総合力を発揮したコンサルティング営業を実践“一志団結”（第二次中期経営計画の合言葉）で組織融和も着実に進展

FG連結 (億円)



前年比

+43億円
(+40.2%)

当初業績
予想比

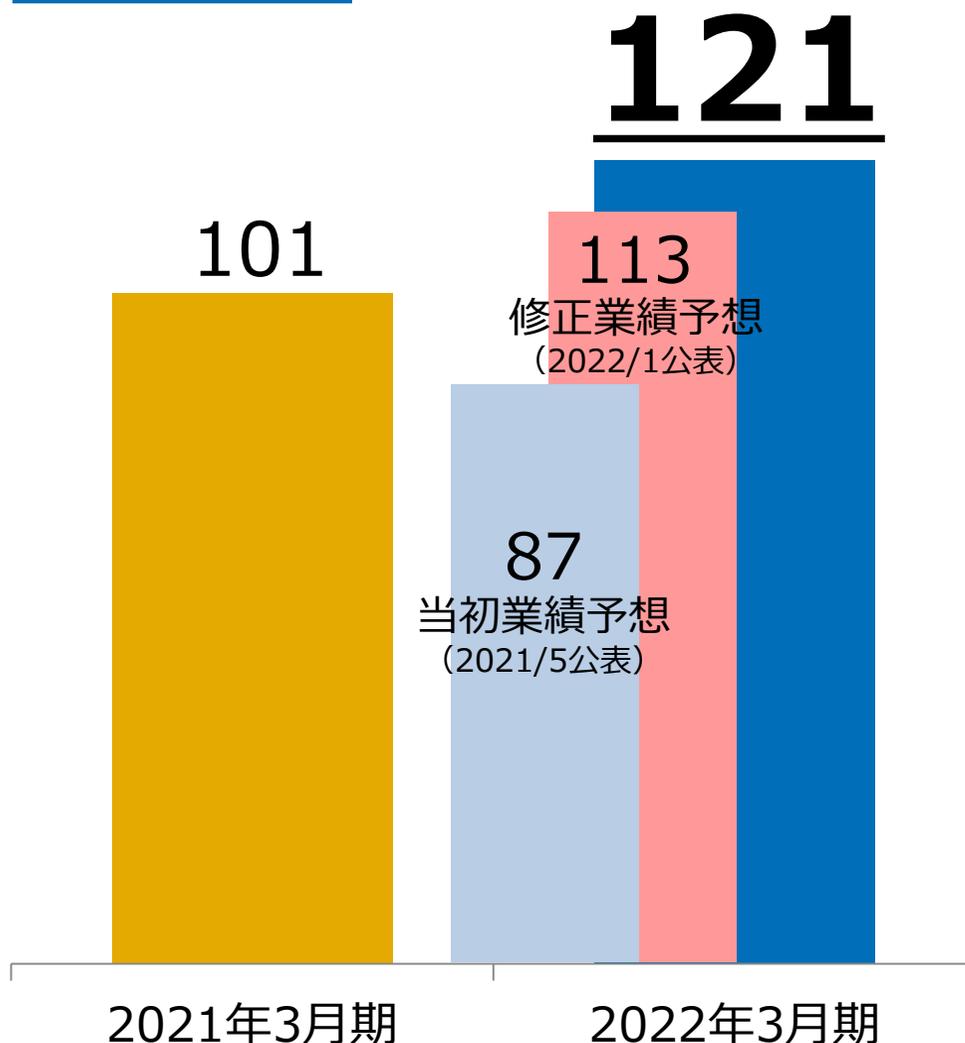
+41億円
(+37.6%)

修正業績
予想比

+11億円
(+8.1%)

部門別 当期純利益の状況

銀行単体 (億円)



前年比

+ 19億円
(+ 19.6%)

当初業績
予想比

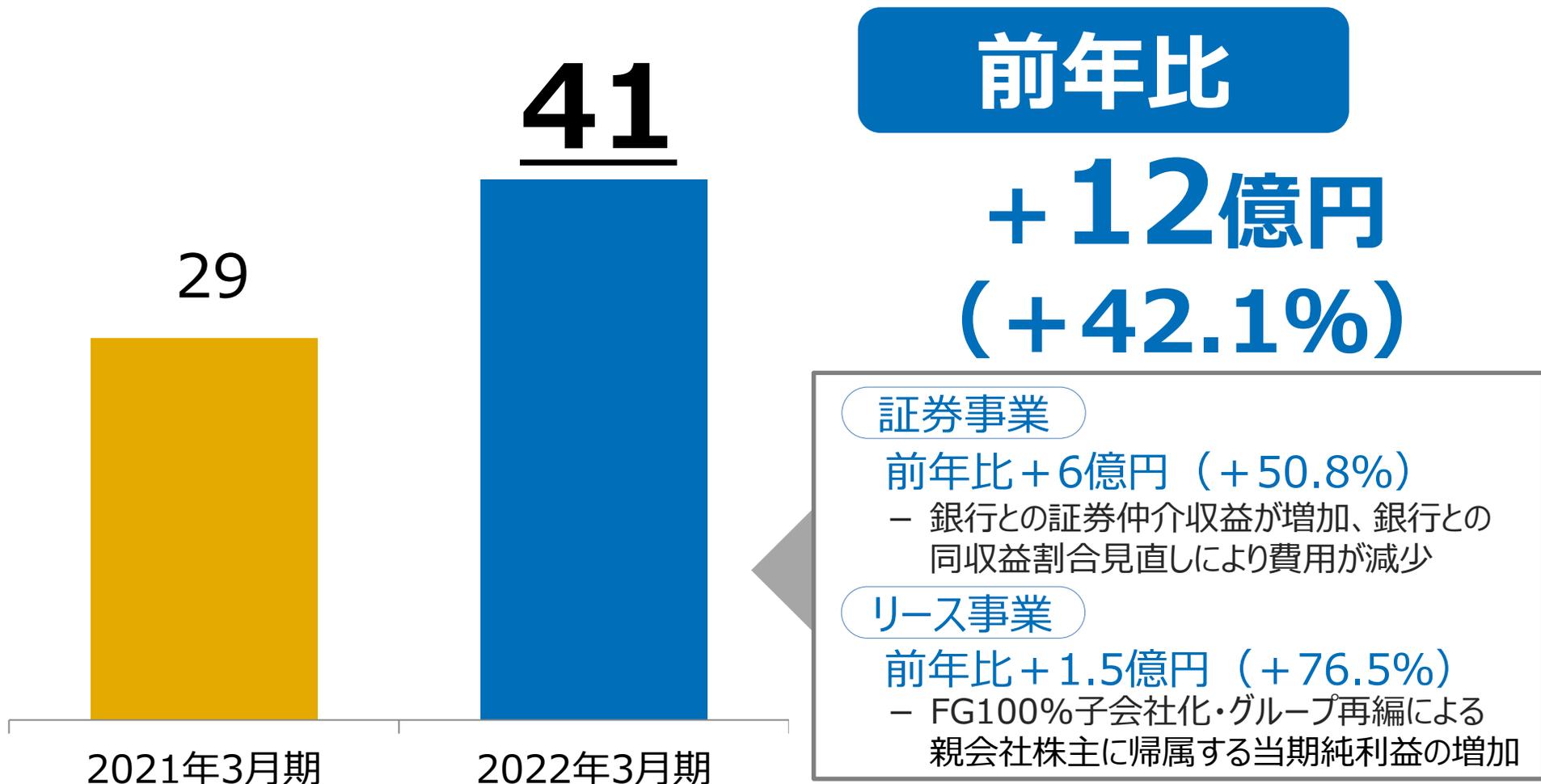
+ 34億円
(+ 39.5%)

修正業績
予想比

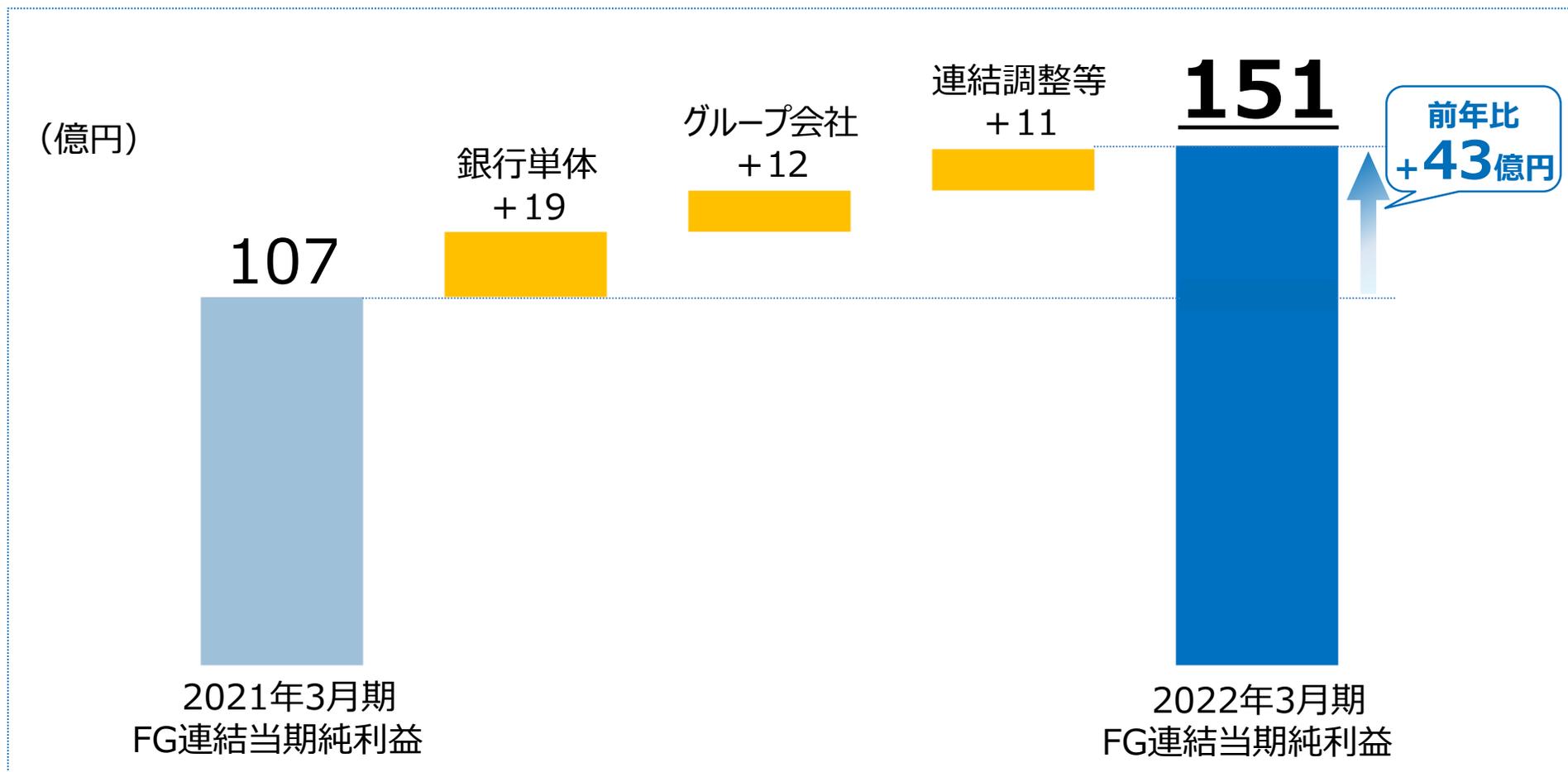
+ 8億円
(+ 7.4%)

グループ会社部門 (億円)

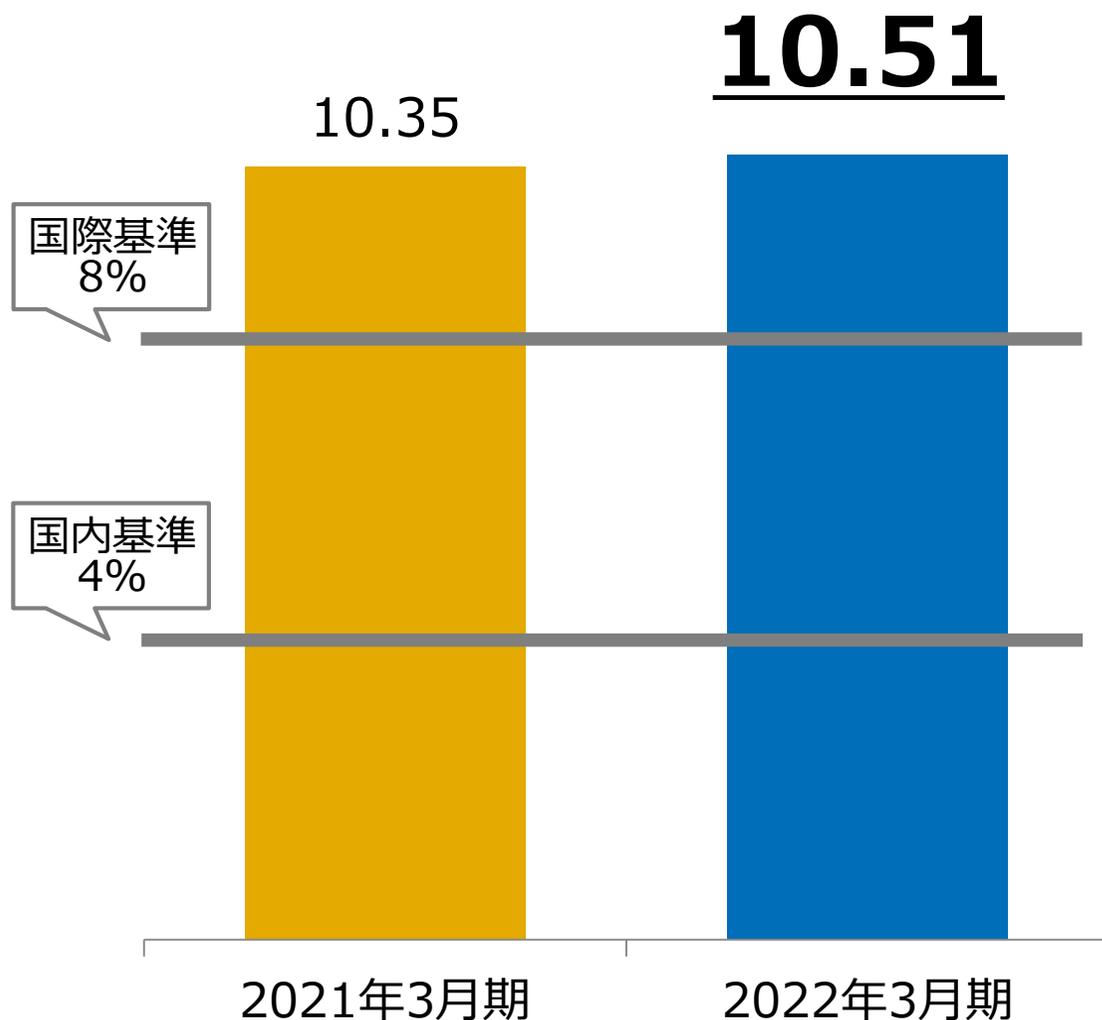
※ 持株会社・銀行を除くグループ会社の親会社株主に帰属する当期純利益の合計



シナジー効果により銀行単体・グループ会社部門がともに増益となり、
FG連結当期純利益は増益



FG連結 (%)

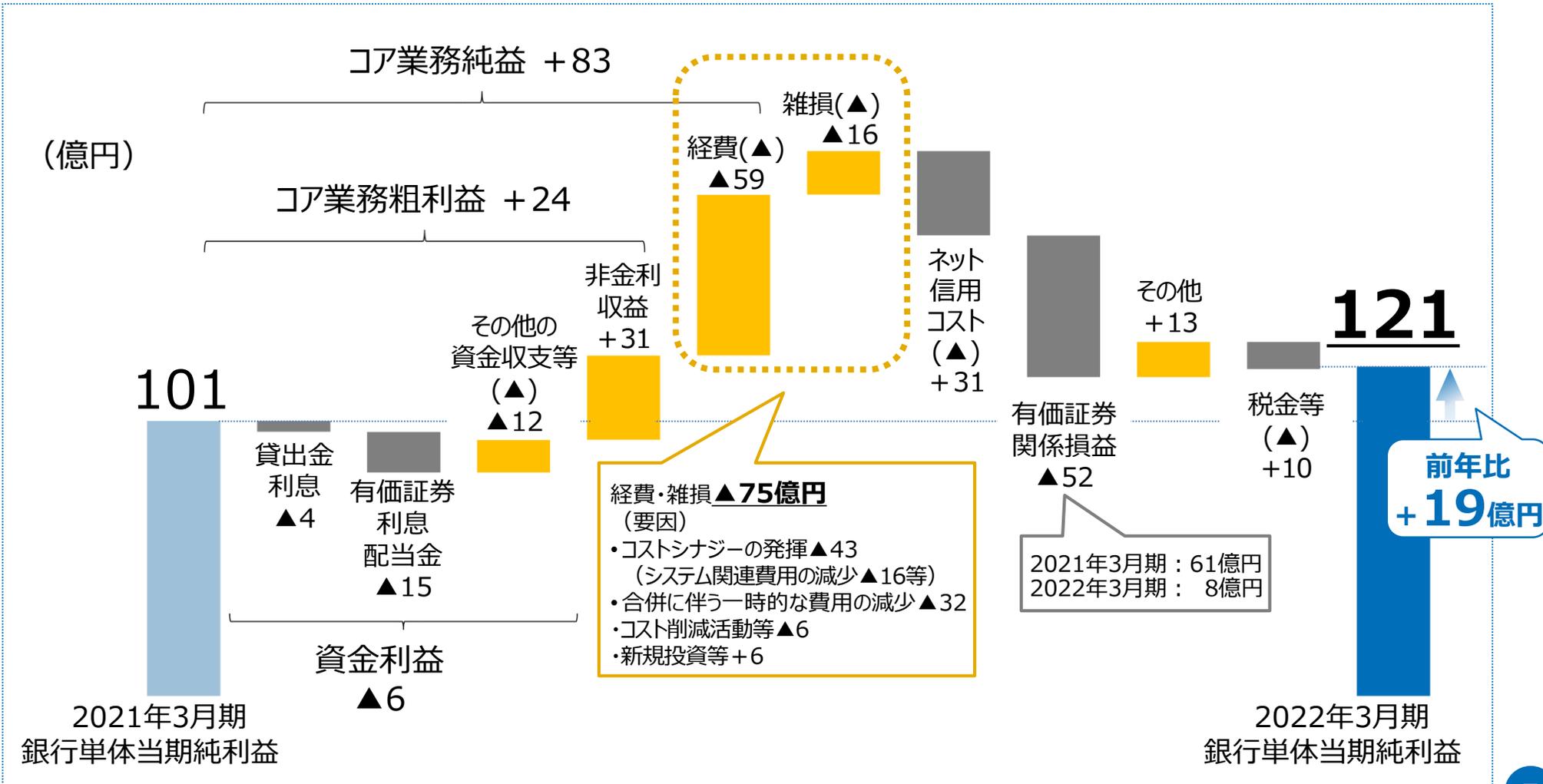


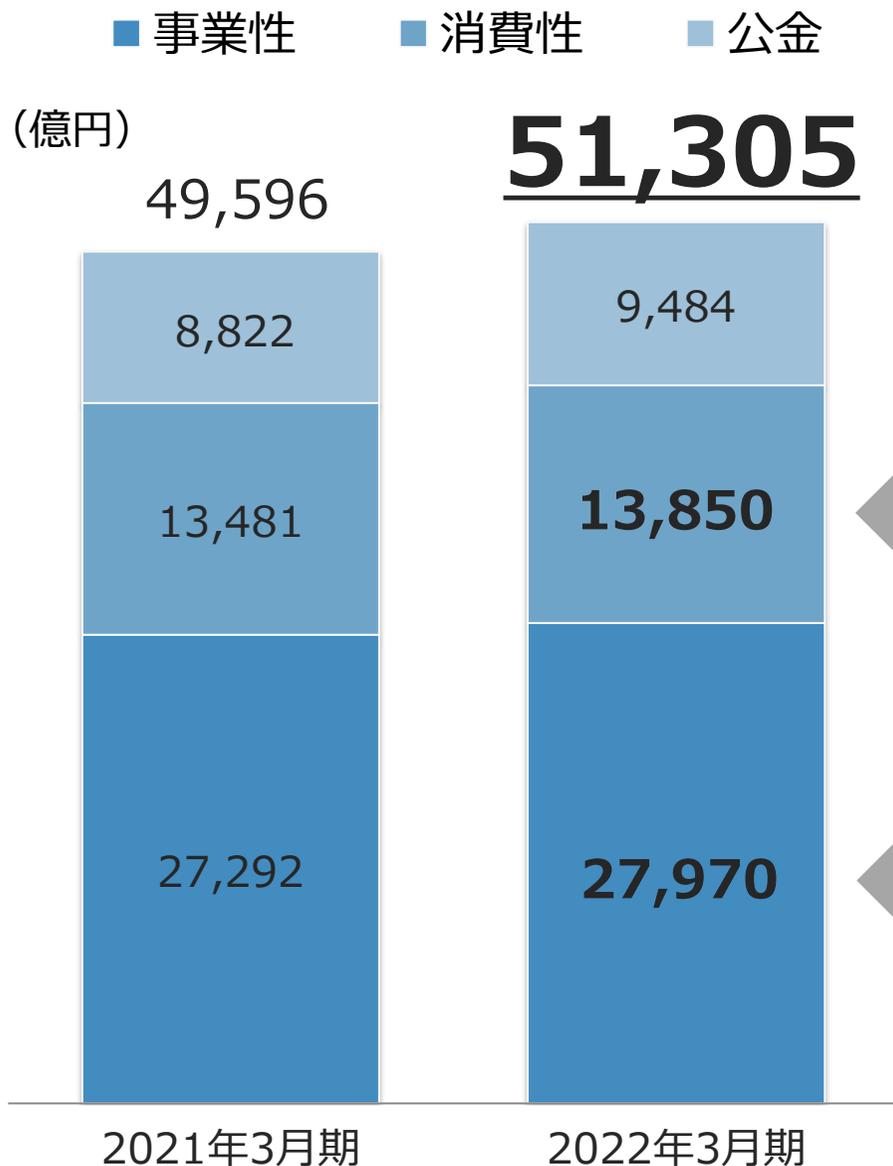
前年比

+0.16%

- FG連結での自己資本比率は国内基準である4%、国際基準である8%を上回る十分な水準を確保

シナジー効果により大幅な非金利収益の増強や経費削減を実現し、
銀行単体の当期純利益は増益





前年比

+ **1,709**億円
(+3.4%)

消費性

前年比+369億円 (+2.7%)

- 住宅ローン・無担保ローンともに増加

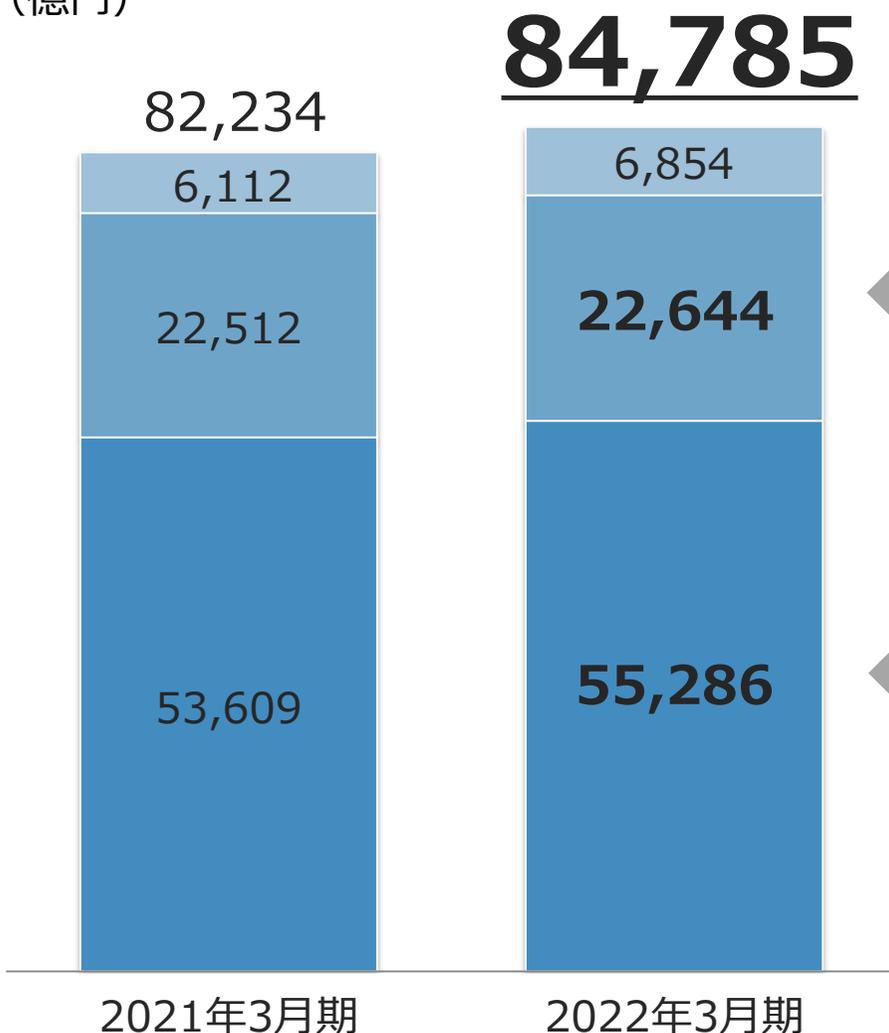
事業性

前年比+678億円 (+2.4%)

- 県内は前年の積極的な新型コロナウイルス対応への支援の反動などにより減少
- 県外は大企業向け貸出などが増加

■ 個人 ■ 法人 ■ その他

(億円)



前年比

+2,550億円
(+3.1%)

法人

前年比+131億円 (+0.5%)

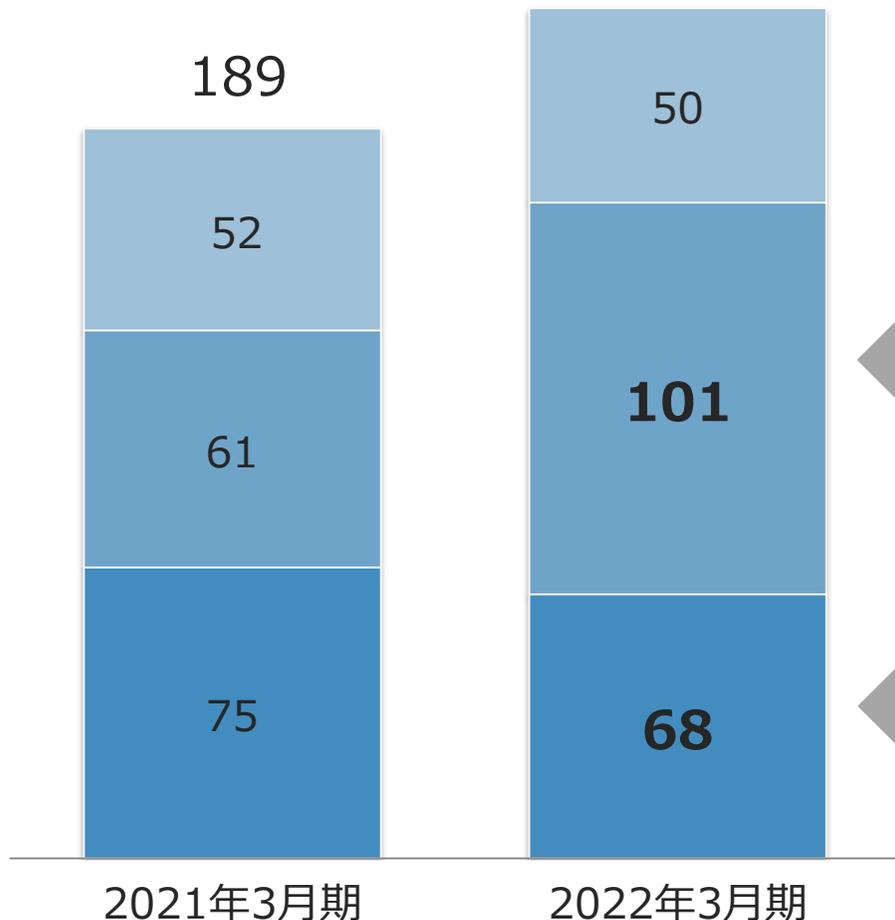
個人 (個人事業主を含む)

前年比+1,676億円 (+3.1%)

- 新型コロナウイルス禍での資金調達による手元流動性の積み増し、個人消費の低調などを主因に法人・個人ともに増加

■ 資産運用アドバイス ■ 金融ソリューション ■ その他

(億円)

220**+31億円**
(+16.4%)**前年比**

金融ソリューション収益

前年比+39億円 (+63.8%)

- デリバティブ、M&A・事業承継が増加

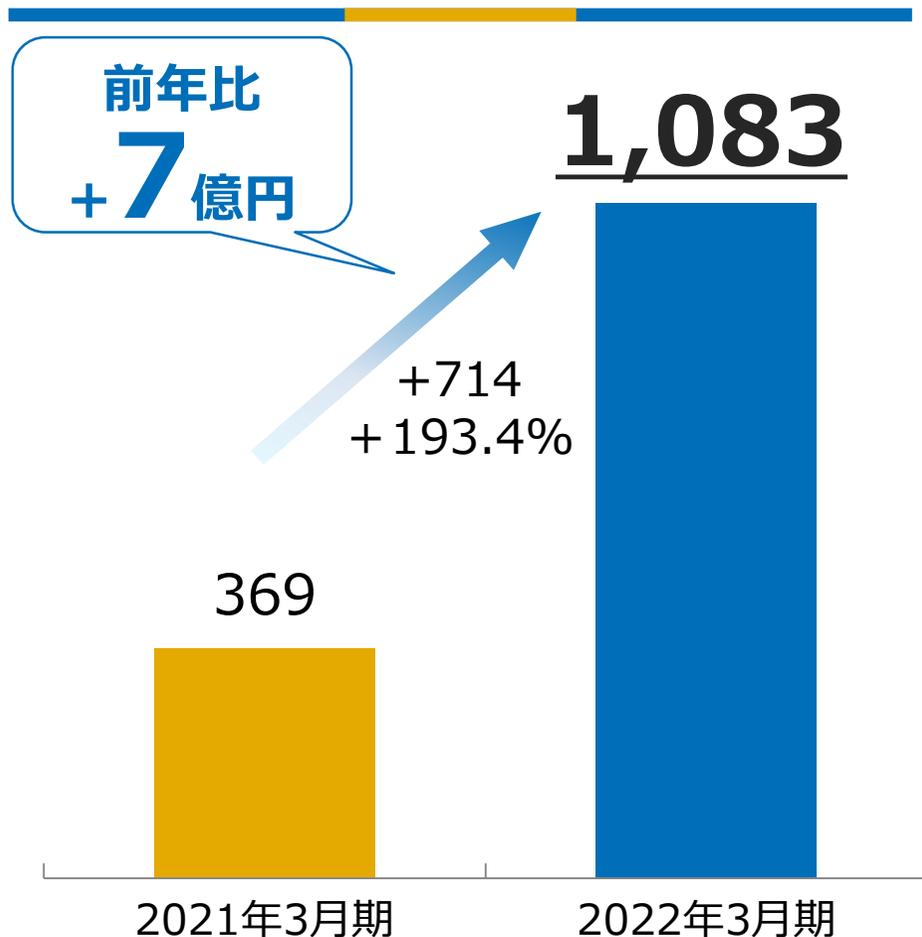
資産運用アドバイス収益

前年比▲6億円 (▲8.8%)

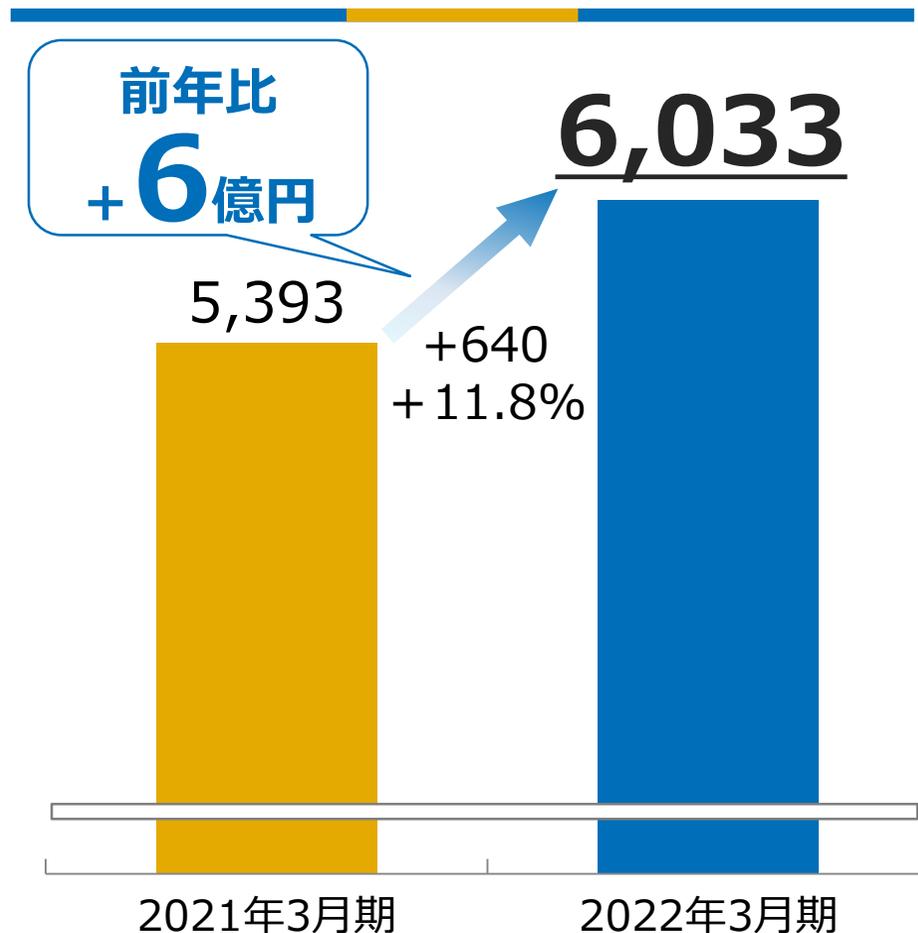
- 投資信託、保険は増加
- 証券仲介が銀行と証券子会社間の収益割合見直しの影響などにより減少



M&A収益 (百万円)



投資信託・保険収益 (百万円)



「新型コロナウイルス・ウクライナ情勢・原材料価格上昇等に関するご相談窓口」を全営業店に設置

環境変化に向けた支援

- ウィズコロナ・ポストコロナ時代の経済社会の変化への対応
 - DX、生産性向上支援、専門人材の確保等
- 新分野への事業展開や新たな投資に対する補助金の活用支援 等

– サステナビリティ・SDGsの取り組み支援 –

第四北越SDGsコンサルティングサービス

- SDGsの取り組み状況診断
- SDGs宣言策定支援 等

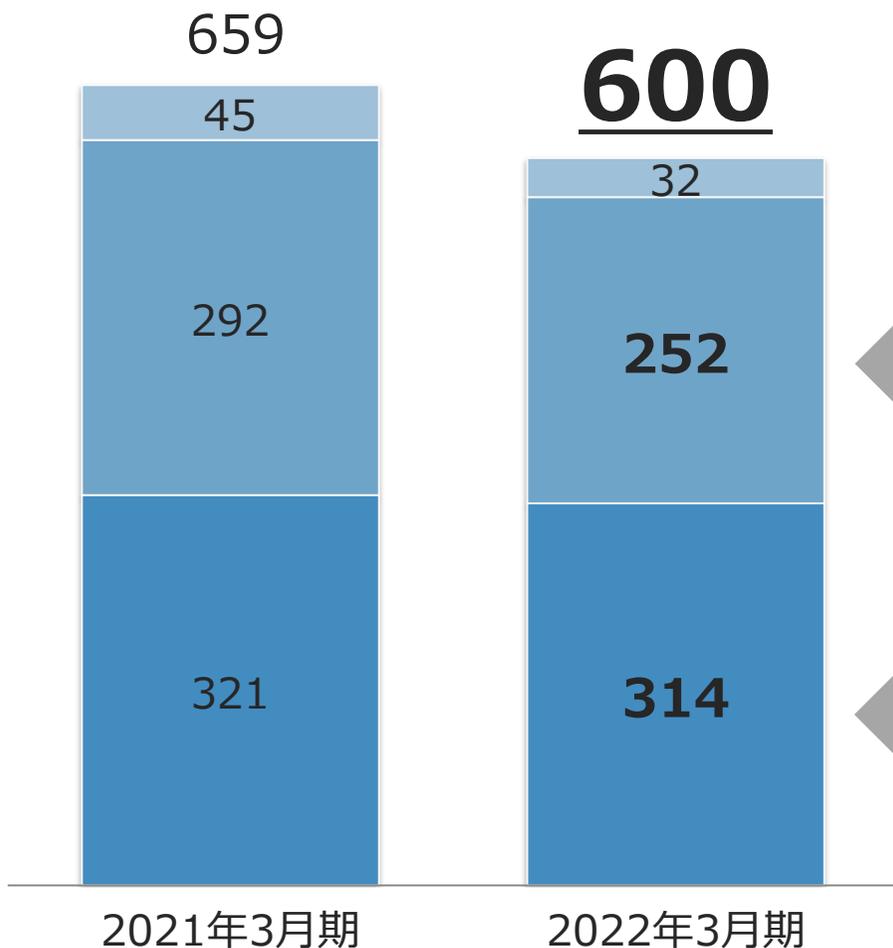
SDGs宣言策定支援件数

40件

(2022年3月末時点)



■ 人件費 ■ 物件費 ■ 税金
(億円)



前年比

▲59億円
(▲8.9%)

合併
シナジー

物件費

前年比▲40億円 (▲13.6%)

- 合併によりシステム関連費用が減少
- 頭取を委員長とする「構造改革推進委員会」での厳格なコスト管理の実践

人件費

前年比▲6億円 (▲2.0%)

- 自然減による人員減少に加え、合併・事務システム統合完了等に伴う時間外手当の減少

FG連結 (%)

OHR (連結) ※ 前年比▲13.5pt

- 日本銀行「地域金融強化のための特別当座預金制度」については、2023年3月期での基準充足を見込んでいたが、合併によるコストシナジー発揮により経費が大幅に減少したことなどから、1年前倒しで基準を充足する見通し

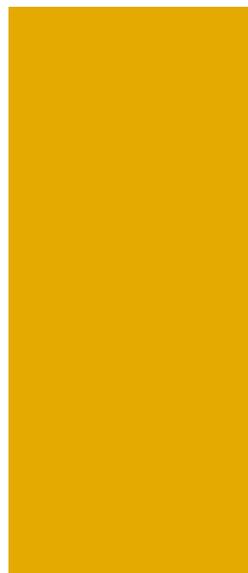
※ $FG\text{連結営業経費} \div FG\text{連結粗利益}$ (粗利益に対する経費の比率)
効率性を示す指標で比率が低いほど、少ない経費で、多くの粗利益を上げていることを示す

84.7



2021年3月期

71.2



2022年3月期

68.3



2023年3月期
業績予想

■ 不良債権比率 ■ ネット信用コスト

(%)

1.79

2.20

不良債権比率

前年比 + 0.41pt

(億円)

38

69

ネット信用コスト

前年比 + 31億円

2021年3月期

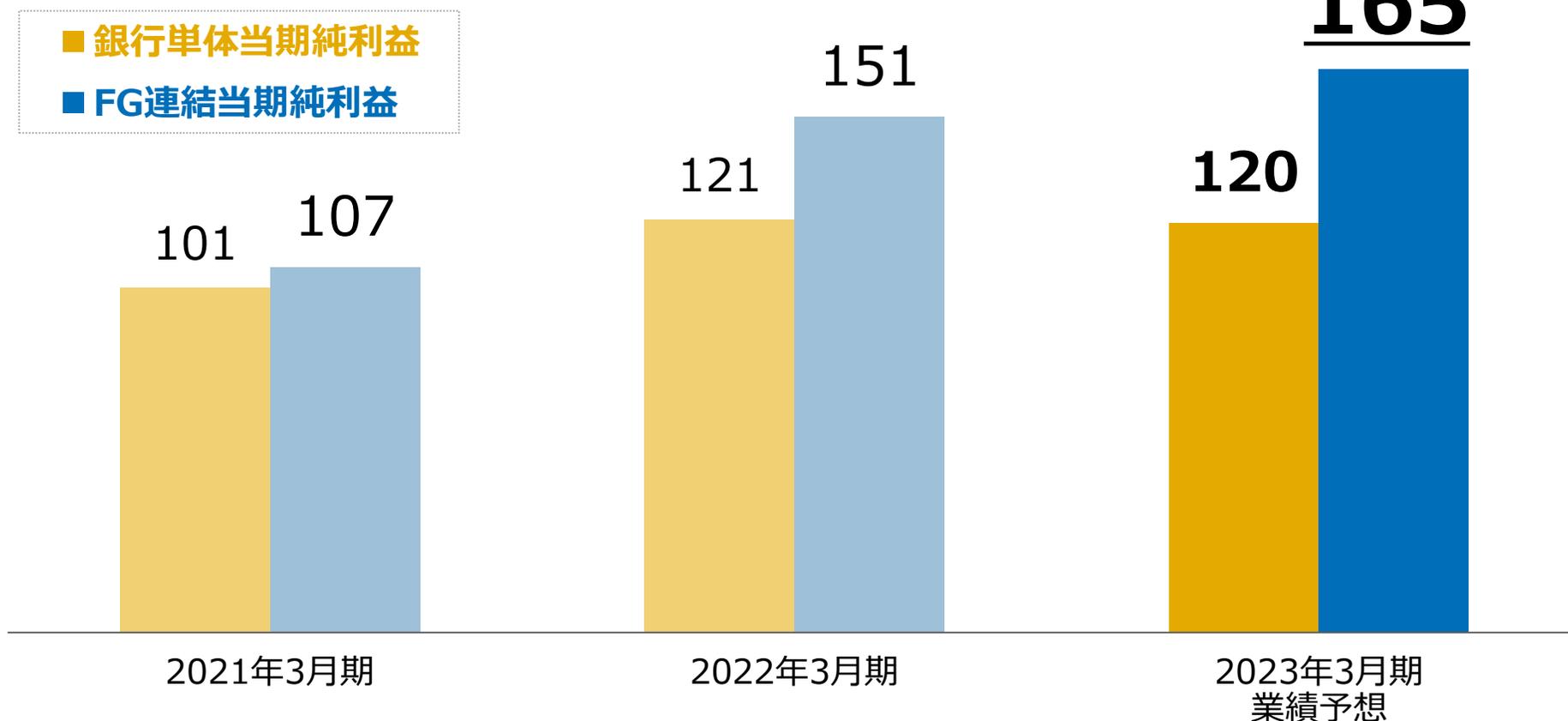
2022年3月期

- ー 業績低迷の長期化を要因とした企業のランクダウンが発生したことなどから増加
- ー 新型コロナウイルスの影響長期化やゼロゼロ融資終了後の資金繰り状況、加えて地政学的リスクの顕在化、資源価格等の高騰などによる影響を注視し、お取引先への経営改善・事業再生のご支援に引き続き注力

2023年3月期業績予想

- **FG連結の当期純利益は前年比+13億円（同+8.9%）増益の165億円を見込む**
- 超低金利環境の長期化による有価証券利息配当金の減少、新型コロナウイルスの影響長期化や地政学的リスクの顕在化、資源価格等の高騰などを踏まえ、ネット信用コストを保守的に織り込む
- 一方、店舗統合や営業店業務改革などを通じた経営資源の再配分をさらに加速させ、グループ総合力を発揮したコンサルティング営業の実践によって、トップラインを増強することにより増益を見込む

(億円)





DAISHI HOKUETSU
Financial Group

第四北越フィナンシャルグループ

お問い合わせ先

**第四北越フィナンシャルグループ
経営企画部**

T E L 025-224-7111

E-mail g113001@dhbk.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。